

(3) 漁船沈没(火火上)

那霸	一一〇	一〇	(七三)
首里	八五	八	(八)
與那原	七二		
糸満	一五五		(一九)
嘉手納	一二九		(三)
計	二四五		(二二)

那霸 六
名護 一一(四)
渡久地 九
計 二六(四)

(4) 通信関係
無線 被害ナシ

内糧係
全縣各局(約)5月分迄(見之)

現保有量(約)4月分迄(見之)

(5) 其他ノ損失

有線開耳	四(内千機二)
客車	六
カソリック	四
輕便軌道	

日鐵道(嘉手納線) 古波藏(國境間不通)
與那原線(大謝名停留場)停下為不通

4. 治安状況
山空襲(初)ハ友軍機ノ來擾無キ、敵ノ宣傳ビラ、振布(及)初級、取
害甚大ナリトニ依リ一部ニ敵上陸隊ノ流官ヲ出テ了リ、ハ機材ヲ
縣制ト密ニ協同シ保之ノ為今ノ期マシ

大才管ノ政務悉奉ハ好影響ヲ與ヘ人心平靜ニシテ治安ニ要ス
スベキ事家ヲ起ス

(2) 災荒ノ為家産ノ遠失倒壊多シシ難民ハ縣民皆首指事至極ニ
基干内政部兵卒厚生謀及地方謀ニ各テ保護ノ萬全ヲ期シツテ
尚大才管登表ニ依リ縣民志氣奮胆盛ニシテ此ノ戦果ハ和親
市街ノ全焼ノ下キ行等甚トスルニ足ラズト為シ人心極メテ平靜
治安ニ至ラズモスベニ事家無シ

考備	計合	明不備行	傷	死						
	533		314	219						
	皆 災 罹									
	14,18戶									
	戶全									
	家住非		家住		區分					
計	其他	農業用水 杯業用水	一般住家 附屬多	計		其他	會社場	學校	公共 住宅 辦公 等	一般住家
	63		4	10,125	43	51	9	46	10,796	燒全
	(含)			18		1			11	潰全
	庫			14		1		1	12	燒半
				67		3		1	65	潰半
										失流
										漫床
										水上
67	63		4	11,016	43	56	9	48	10,850	計
										燒全 潰全 燒半 潰半
										失流 漫床 水上

中區(那霸市)

屋

十戰訓

一 敵機動艦隊之攻勢ニ對スル狀況判斷ト之カ根本措置ニ依リテ
 今次敵機動艦隊之攻勢乃一面及時機從來ノ戦例ト同様に
 各方面諸情報ニ依リ既ニ且前以テノ概不豫知セラレ軍上層ハ
 十月八日朝兩度戰備ヲ下令シ漸次之ニ即應スル態勢ニ移行セリ
 即チ戰術的ニ奇襲セラルトアルニ戰術的ニ相當ノ時日餘裕
 ヲ存シ敵之攻勢ヲ豫知シ得ルヲ以テ一般ニ判斷基キ目前若干
 利害ニ依リテ之ヲトナシ大局的措置ハ之ヲ斷行セサルベカラズ
 作戰上ノ對策ハ暫ク置キ戰局ニ直接必應テキ飛行機及船舶ノ
 大規模撤退セル邊運揚格揚艦前後港灣等附トシテ右大量ノ軍
 需品撤退セル分敵軍ノ如キ敵ノ大攻勢亦アル根本的對策斷テ如
 シテ始メテ實行レ得ベシ
 二 敵機動部隊ノ以テ及攻勢ヲ受領

今次は航空機^{攻撃機}の飛行部隊の訓練精利を以て其の攻撃要領を
 爆撃要領に爆撃機に任ぜしむるに優劣あり其の攻撃要領を觀察するに
 敵の攻撃機に重砲を指向せしむる状況左の如し

第一次 〇七〇〇―〇八二〇 飛行場

第二次 〇九二〇―一〇一五 飛行場及船舶

第三次 一一四五―一二三〇 港灣施設

第四次 一二四〇―一三四〇 都市(併に那覇市)

第五次 一四四五―一五四五 都市(併に那覇市)

而して敵が第五次に重砲の攻撃を重砲を指向せしむる状況概不所述を以て
 其の同少部隊を以て多飛行場を連続制壓せしむる外一部を以て
 艦之島及宮古島を飛行機で攻撃せしむるに第一攻撃隊を以て
 直合撃を以てせしむるに小部隊を以て同一目標を以て数方向より攻撃し
 且艦隊艦隊の中を縦横に攻撃せしむるに概不所述を以て攻撃

效果が大なるに多かるが如し

敵の第一次並に第二次攻撃隊を以て航空機隊を以て完成せしむるに其の比較
 的兵力を算結し同一目標を以て同一方向より大膽に攻撃せしむるに
 第四次第五次の攻撃隊を以て同一目標を以て大膽に攻撃せしむるに
 飛行機を以て爆撃機を以て行はせしむる

爆撃機

敵の攻撃機は常に戦闘機を以て先行せしむるに其の利益下に爆撃機を以て
 施すに下に従来ノ戦術ノ如しト雖も此機隊は其の敵が重砲を指向せしむ
 徹底せしむる攻撃機を以て為るべきに其の飛行場を以て制壓せしむる
 而して敵機が各機共大砲を以て其の飛行場を以て制壓せしむるに
 ラシメタルコト断雲を利用し其の上空より奇襲的爆撃機を以て
 ヤルコト火炎を以て煤煙を利用し奇襲的爆撃機を利用せしむるコト
 爆撃機後離脱方向に防空火器少なきに並面を以て決定せしむるコト

都市爆撃に於て風上ニ燒更彈ヲ投下セカキト其空中
指揮員ハ其ニ集積敵艦合極マラ巧妙ナリレトト爆撃後低
空ニテ效果偵察ヲ實施スルカキ科學的根基ト攻撃ヲ
組織的ニ實施シ訓練極メラ優秀ナリ

二 爆撃要領

一 爆撃法

敵艦爆撃目標ニ應ジ彈種ヲ變へ爆撃要領ハ概テ空進
高度ニ〇〇米降下角四五度乃至七〇度ニシテ五〇〇米附
近ヨリ銃筒銃(砲)撃ヲ實施スルニ通常五〇〇米附近ニテ
投彈シ離脱スルヲ一般トス離脱高度ハ二〇〇乃至三〇〇米トモ
シキハ〇〇米以下ニ降下スルコトアリ艦船爆撃等精密爆
撃等精密爆撃ノ實施スル時緩反轉ヨリ垂直降下セ
爆撃ヲ行フモノアリ又都市爆撃ニ在リテハ緩降下爆撃ヲ行

口 飛行機攻撃

今次敵ノ飛行機攻撃ノ重點ハ暴露飛行機及掩体内飛行機並
ニ所屬施設ニ指向シテ飛行機ノ破壊攻撃ハ輕視セカキヲ飛行
機破壊ノ爲メ攻撃法ハ滑走路及誘導路ノ取付部分ヲ攻撃ス
而シテ敵ノ爆撃機ハ優秀ニテ海軍小隊飛行機ニ於テハ大型機
内ニ中彈ヲ被シ殆ド全部失火セリ今中隊ヨリ推定シ敵ハ中隊ト
爆撃ヲ使用セズ非ズヤ)使用彈種ハ大型爆彈一發(或ハ小型
爆彈三乃至四個)混用シ必ズ銃砲撃ヲ併用セリ其ノ使
用信管ハ彈痕ヨリ推定スルハ瞬發信管若シテ延期信管ヲ使用セリ
大型爆彈ハ五〇瓦ニシテ土質及地形ニヨリ若干差違アルヲ漏
斗口ハ中徑一〇―二米深サ二五―三米ナリ

ハ 艦船攻撃

敵艦船攻撃ハ概テ掩体内飛行機攻撃要領ト大差ナク其ノ

緩反轉垂直下降爆撃ヲ行フモノアリ而シテ第三次攻撃隊迄ニ
艦船ハ殆ド全滅セラレタリ

二 都市爆撃

都市爆撃ハ概シテ小型爆弾一トハ三ニ至リ使用シテニ焼夷
弾ヲ混用ス燒夷弾使用シテハ風上ニ散布シ燒夷效力ヲ
偉大ナラシメタリ

三 情報ノ収集及運達ニ就テ

一 ニロロト南洋ヲ前セシ南西諸島ニ於テハ哨戒機潜水艦等
ニ依リ少クモ六ロロト杆圏内ニ同定ナル哨戒網ヲ布スルコト絶對
必要ナリ

電波警戒機ノ情報ノ之ヲ地上ノ對空戰隊準備ヲ整フルハ
可能ナルモ飛行機及船舶ハ奇襲セラル

ニロロト將以內ニ於テハ完全ナル遠距離哨戒網ヲ整へ得ス

三 情報通信網ハ指揮通信網ト別ニ完全ナル一系ヲ必要トス指
揮通信網ヲ使用シ情報ヲ速達スルニ結節多ク戰隊間實行
部隊ヲシテ適切ニ之ヲ利用セシムルハ困難ナリ 離島相三
間ニ於テハ極メテ簡單ナル略装放送ニ依ラザレバ情報価値
ヲ低下ス

四 情報通信要員ニ專任固定任務トシ高定ノ訓練ヲ行ヒテ
ルヲ要ス

四 航空基地ノ掩護ニ就テ

一 飛行場ヲシテ堅固ナル航空要塞ヲラシムル為ニハ完備セル
情報組織防空組織及強度大ニシテ秘匿セル掩護ヲ必要トス
二 防空組織ハ戰隊及高射部隊ヲ併用シアルコト必要ニシテ
高射砲ノ之ニ依ル防空ニテハ完全ナル掩護ハ困難ナリ

3. 高射火器ハ艦載機ニ對シテ高射砲及機關砲ヲ併用スルニト
必要ニシテ少クモ一ロコ射口以上ノ一團トシ濃密ナル火網ヲ構
成スルヲ要ス數門ノ高射砲ニテハ連續シテ來襲スル敵ノ大
群ニ對シテハ若干台ヲ與フルニ過キズ結局敵ヲシテ其
ノ目的ヲ達セシムルニ至ル

4. 偽飛行場偽飛行機等ニ敵火ヲ誘發分散スルハ極多ク有效
ナリ又逆ニ多量ノ破損機ノ間ニ置キテ飛行機ニシテ攻撃ヲ
免レタルモノアリ

5. 飛行場ノ構成及施設

今迄ノ空襲ニヨリ飛行場附近建築物ハ殆ト全燒セリ故ニ今後ハ
從來ノ如キ平時思想ニ基テ地上建築物ヲ全廢シ飛行場附近
施設ハ分散セル地下施設ニ徹スルヲ要ス

2. 飛行場ノ構成

火網爆撃ヲ前提トシ且其補從公算並ニ命中ノ公算ヲ根基
トシ且破片散力ヲ對稱トセル暴烈ナル飛行機機體ハ敵機部隊
ノ攻撃法タルニ降下爆撃並ニ銃撃等ニ對シテハ效果少キヲ
立證セラレタルヲ以テ構想上ニ一大刷新ヲ加ヘ且創意工夫ヲ
凝ラスヲ要ス

3. 航空作戰資材ノ分散ノ價值

飛行場ノ附近施設ノ一部タル飛行場周辺ニ分散セル燃料彈藥
ハ半洞窟内ニ收容セシメタル結果殆ト損害ヲ受ラズ且
徹底セル分散ヲ實施セシムルヲ要ス而シテ飛行場ノ分散ニ依
ル不便ハ訓練ニ依ツテ補正スル如ク空地西部隊ヲ演練ス
ルヲ要ス

六) 彈痕補修

敵ハ其ノ攻撃ノ重點ヲ檢体及附属設備ニ指向セル結果飛行機已升
スル被弾ハ僅少ナリ 従ツテ彈庫補修作業ハ沖籠本島方面ニ
於テハ概ネ七時間ニ至テ完整ト空期以後ハ格別飛行場使用ハ支
障ナカラシメタリ 然レ共敵ガ飛行場射撃ノ目的ヲ以テ消走路
ノ取壊攻撃ヲ企圖セル場合ニ於テハ更ニ徹底セル対策ヲ講ジ置ク事
ス 而シテ今次爆撃ヨリ彈庫大ナルハ中程一〇一ニ米深サ二五
三米ニシテ彈痕補修材料トシテ集積セル消走路ニ於テ毎一〇〇米
立六米ヲ集積セル基準ハ概ネ支障ナキトス

(六) 船舶ニ就テ

一 船舶ハ強カナル防空火器ヲ以テ裝束セラルルヲ要ス 今次空襲
ニ於ケル船舶ノ防空裝束ハ極メテ貧弱ニシテ敵機ノ意ニ儘ニ
委スルノ外無キ狀況ニシテ其ノ遺憾ハ極メナリ 殊ニ艦載機
ヲ以テ科索本船射撃シ少クモ六門以上ノ門ヲ裝束ノ事
アリ

二 防空火力無キ港灣ハ殆ド信値無し

一 敵機ノ約半日ニ亘ル執拗ナル港灣船舶攻撃ヲ對シテ港灣施設ノ
被害ヲ最少限ニ局限セシカニ爲シテ補給基地タルルベキ重要港灣
ニ少クモ百門以上ノ高射砲百門以上ノHMAヲ配置スルヲ要アリ
然ラザレバ重要港灣ハ一瞬ニシテ潰滅シ軍ノ作戰準備ハ
至大ノ影響ヲ及ボスベク戰力源タル港灣ノ防空確保ハ
航空基地確保ト共ニ極メテ緊要ナリ
三 貧弱ナル港灣防空火力圏下ニ於テハ船舶ノ損害減少ノ目的
ヲ以テスル避難ハ殆ド信値無ク何レノ地點ニラズハ徹底
的攻撃ヲ受ケ撃沈セラレアリ 従ツテ在港船舶ノ避難ハ港
内閉塞防止ヲ目的トスル港外避難淺瀬乘リ上テ又トス

4. 絶對優秀ナル敵機ハ機帆船艦船帆艦ニ至ル迄徹底的攻撃ヲ加ヘアリシ從ツテ徹底的空襲下ニ於テハ地形特別ニ有利ナラサル限リ船艦ノ海上浮上ハ極メテ困難ニシテ海上懸空ヲ畏ルノ及ボス深刻ナル影響ヲハ甚シク致命的要素ナルベシトシテカガ秘匿偽裝ノ比較的容易ナル大發信機ハ其大ニシテ將來離島地色ニハ大量ニ配當シ局地輸送力ヲ確保スルヲ絶對要トス而シテ大發ハ秘匿在置ノ徹底的偽裝ニ被害ノ絶對ニ防止スルヲ要ス

5. 空襲時終ケル船員ノ確保ハ逃避防止ニ関シ豫め的確ナル處置ヲ講ジ置クヲ要ス今次空襲ニオリ船員ノ逃避ニヨリ港内發火ヨリ船艦類燒ツ所止シ得タルニ拘ラズ速ニ救出セ得ザレバカキ或ハ空襲終了後救ヒク應ルモ船員ノ

6. 急降下ヨリ港灣爆撃ニ對シ大規模ノ煙化ハ船艦被害減少ノ見地ヨリ價值極メテ大ナルモノアリルベク思ヒ考セラレ之ガ為常時ヨリ重灣港灣ノ煙化奇者ヲ準備シ置クノ要アリ

7. 重灣港灣ハ船艦ニ打テ上ヨリ多量裝備スルヲ要ス
8. 港灣ニ於ケル埠頭及埠頭附近地區ノ倉庫建物等ハ總テ撤去スルヲ要ス今次那覇港ニ於ケル第一埠頭地區建物疎開ハ價值大ナリシト認ム之ニ及ビ第一埠頭地區ノ倉庫建物ハ疎開未ダ着手シテラサレシ為被害極メテ大ナリキ

9. 磁氣機雷掃海對策ヲ常時準備シ置クヲ要ス
本件ハ海軍ノ行フベキ事項タルモ準備不十分ナリシ為未ダ掃海不可能ナル實情ニ在リ

10 空襲後港内整理ノ為ニ先ツ速カニ安全航路ヲ標示スル
ノ準備ヲ整ヘ置クヲ要ス

11 港内附近ニ在ル油タンクハ存在スルヲ得ズ 地下ニ埋没スルカ
ドヲシテ鑛ニ格納スルカ少クトモ完全ナル偽装ヲ必要トシ
而モ周辺地帯ニ一般建物無キヲ要ス

12 燃弾等ヲ搭載セル舟艇類ヲ港内埠頭地帯ニ懸索留スルハ適
當ナラス 天候氣象許ス限リ搭載終了後速カニ港外ニ
退避セシメ置クノ要アリ

13 埠頭附近ニ在ル船舶機関ハ平時ヨリ堅固ナル地下設備ヲ
完備シ置キ空襲直後ニ於ケル迅速ナル活動ニ遺憾ナ
キヲ期スルヲ要ス

14 船舶機関ニ若干ノ折疊井ヲ装備シ置キ空襲ニヨル舟
ヲ實花ニ得ル如クノ處置セラル事ヲ要ス

15 本船ヨリ揚格セル軍需品ハ常に埠頭地帯ヨリ運搬シ埠
頭ヲ開放スルヲ絕對必要トス 之ガ為ニハ陸上小運送力ノ
整備 兵力ニヨル軍需品運搬等萬策ヲ盡スノ要アリ

然ラザレバ揚格軍需品ハ一瞬ニシテ一旦燬ニ歸スベシ
16 船舶修理機関ハ地下設備トスルニ非ザレバ價值無し
殊ニ修理部品工具等ノ極端ナル分散地下貯藏ニ徹スル
ノ要アリ

17 空襲ト共ニ一般民船ノ乗組員ハ迷セシ投リテ悉ク之ヲ歸來
セザルモノ多数アルハ實情ニアリ 之ガ為ニ於テ豫メ沈没
セル軍機以船漁船等ヲ連カニ運用シ民船ヲ運航スルハ

空襲直後ニ於ケル局外輸送力ヲ確保スルヲ為シ要アリ

18 對空射撃ヲ要ス

- 1 緒戦ニ於テハ乱射ノ價高ニシテ彈藥ノ節用ニ關シ發射
彈數ヲ指定シ節用ヲ嚴戒スルコト肝要ナリ(軍令下合ヒテ)
- 2 少隊確信射撃ニ徹底スルヲ要ス 最有效射撃ヲ點ニ敵機
ノ入ルヲ待チ一發ヲ以テ墜ヲ期スル如ク待射(近射)行
ヒ確信ヲキテ合ハ射撃セサルヲ可トス 某運射部隊(早七機
砲)ハ右要領ニ依リ三發ニテ三機ヲ撃墜セリ
- 3 高射部隊ハ敵機ノ如何ナル狂攻ニ合フニ最然應戰ス氣魄
ヲ失フ事高射部隊ハ時間運續ノ空襲下爆煙色マ
シツ、最後迄健闘シ深キ所銘リ與ヘタリ
- 4 對空射撃ノ有無ニ依リ敵機ノ行動ハ大差アルヲ為シ得
ル限ノ狂反撃ヲ加ヘ敵機ノ行動ヲ慎重ナラシムルコト必要
ナリ 然レ共過早ニ我既備ノ準備スルコトナキ事

山都中防空ニ就テ

1 木造建築ノ三〇〇ヘクタル市街ハ艦爆ニ〇〇機ニテ大部

分ヲ失ヘリ

- 敵ノ都市攻撃要領ハ風上ニ燒更彈ヲ撒布シ我消火行動
ヲ妨害スル為爆撃銃砲撃ヲ併用スルヲ以テ消火ノ餘裕
ナク忽ニシテ全市火ノ海トナレリ 而シテ重要機關(官
衙)重要工場、発電所、通信所、放送局等)ヲ收容シアル
大建築ハ最初ニ攻撃シ度クナリ
- 2 東京ノ如キ大都市ハ運力ニ防火地帯(帯間隔)一軒以内帯
隔一〇〇ヲ設ケ延焼ヲ極限スル如ク準備スルヲ要スベシ
- 3 屋内及建築物ニ近キ壕ハ大規模爆撃ニ對シテ公檢護十分
ナラズ堅固ナル有蓋ヲ必要トスベシテ大火ヲ發スルニ至ルヤ
人家密集地帯ニ於テハ過度ニ防空壕ニ依存セントスル

トキハ概不焼死スベシ

4. 空襲ヲ受クニ方リ物件ノ家屋ノ側方七米ニ離隔シ地下三
十程ニ埋メ置クハ有效ナリ

5. 硝子ハ燐風ニ依リ失ツ破壊シ張紙等ハ殆ト效果無シ

可燃性物料ヨリ成ル住居地ヲ伴地内ニ含マレルハ火災ヲ惹
起シ適當ナラズ障碑トシテハ某種度ノ效果アリ

2. 伴地(特に火死伴地)ハ火災ニ依リ戦闘ヲ妨害セラルル也
ノ弊ニ匪風ヲ考慮シテ歸成スルヲ要スト共ニ急ニ得ル

3. コシタリトシテ製法建築物ニ現在ニ於テハ可燃性トシテ
ルヲ可トス所シテ瓦石等ヲ多ク用フル地帯ニ於テ共
ノ敵飛ミ依ル被害ヲ考慮スルヲ要ス

4. 軍需品ノ積蓄所ニ就テ

人軍需品中分散シ洞窟内ニ收容シアルモノハ何等ノ機
密ナルカゾレモ却テ内ニ收容シテノレタリハ燐風等ニ依
燒失セリ所シテ上級司令部ノ分散集積ノ新行機密

ヲ現地現物ニ就テ是等ニ確認スルコト必要ナリ

那覇港揚子負後押頭前上ノ今般終ノ既ニ傳地内ニ取

シテリト考ヘテアレシニシテ和製市街ニ於テ燒火ハ

モテテノ河上ニ既設家屋ヲ利用シヨシ

又陣幕ハ誘導ヲ生セシメ同前ノ置キテ後底内ニ分設シ

且州産内ニ收容シ置クヲ要ス

3. 揮發油ト煤油等ヲ同一地ニ置キ式ノ同一船ニ搭載セル最

モ或レハルヲ要ス

4. ニハリ得ズ野積トセル年需品ハ偽裝遮蔽ヲ徹底シ置

クコト必要ナリ

(三) 通信ニ就テ

1. 有線通信確保ノ第一條件ハ線路選定ノ適切ナルニ在リ

行地ニ於テ揚子負後押頭前上ノ今般終ノ既ニ傳地内ニ取

シテリト考ヘテアレシニシテ和製市街ニ於テ燒火ハ

ト又

又飛舟行妙仙上ノ有無終花燈ハ徹底セシメ同前ノ置キテ後底内ニ分設シ

3. 重要ナル目途無断ノ少ク又五割ノ豫備機ヲ保存シ且電線

應ヨク自給ナル島嶼ノ無断電線ハ少ク又二枝ヲ予備セルニ

要ス

4. 通信ノ現況ヲ把握シ之ヲ的確ニ利用スル用ニ付テ同

ハ等ノ一應制敵ノ定章ニ照シテ後底内ニ分設シ

取不念ナル情状前記既述ノ同前ノ置キテ後底内ニ分設シ

判ツルコトヲ要ス

5. 今般終ノ既ニ傳地内ニ取シテ和製市街ニ於テ燒火ハ

モテテノ河上ニ既設家屋ヲ利用シヨシ

又陣幕ハ誘導ヲ生セシメ同前ノ置キテ後底内ニ分設シ

且州産内ニ收容シ置クヲ要ス

揮發油ト煤油等ヲ同一地ニ置キ式ノ同一船ニ搭載セル最

モ或レハルヲ要ス

ニハリ得ズ野積トセル年需品ハ偽裝遮蔽ヲ徹底シ置

クコト必要ナリ

- ヲ現地現物ニ就キ最モ確認スルコト必要ナリ
 那覇港揚子負後埠頭附近ヨリ今般終ノ既ニ埠地内ニ收容
 シアリト考ヘアリシモノニテ那覇市中街ニ於テ燒失セル
 モノノ一防並ニ既設家屋ヲ利用シ易シ
- 又彈藥ハ誘爆ヲ生セザル間隔ヲ置キテ徹底的ニ公般ニ
 且洞窟内ニ收容シ置クヲ要ス
 - 揮發油ト爆炸ノ同一地ニ置キテ同一船ニ搭載セルハ最
 モ戒ムルヲ要ス
 4. エハワ得ズ野積トセル軍需品ハ偽裝遮蔽ヲ徹底シ置
 クコト必要ナリ
- (三) 通信ニ就テ
1. 有線通信確保ノ第一條件ハ線路選定ノ適切ナルモノ

トス
 之故ノ燃費及火災ノ為爾後適時ニ補修ヲ計ルナルヲ最
 トス

2. 飛行機側ノ有線施設ハ徹底セル洞窟ニ收容スルヲ要ス
 3. 重要ナル自走無線ハ少ク又五割ノ豫備機ヲ保有シ且電波
 電力ハ貧弱ナル島嶼ノ無線電源ハ少ク又二機ヲ常備スルヲ
 要ス
- 又通信現況ヲ把握シ之ヲ的確ニ利用運月スルノ件ニ關シテ
 ハ第一應部隊ノ末席ニ至ルマテ徹底スルヲ必要ナリ特ニ
 不測ニ至ル情報通信聯繫ニ關シテ公強カナル信務ノ統
 制ヲ加フルヲ要ス
5. 冷波空襲ニ於テハ爆撃機ニ依リ通信機壞毀ヲ警戒セテ少
 分出島ヤハ我飛空部隊ニ對シテ警戒高度ヲ〇〇ニ下シ

受野ノ中上ノ歸殺等、世電ヲ發シテ、又石を島ヨリ
或本此一ト云五上陸ノ關也、ノレ、偽電ノ是也、ノ

十三、其ノ他

其ノ他、在、其、若、明、レ、此、點、及、汗、時、施、設、若、明、レ、
之、第、一、ノ、建、テ、完、全、ニ、秘、匿、ス、ル、要、又

其、他、一、亦、本、條、同、空、電、ノ、建、テ、レ、取、下、ナ、ル、ノ、時、宜、ク、
之、行、ノ、不、然、能、能、カ、ク、亦、其、他、の、若、明、建、築、等、(一) 宜、ク、

一、(一) 宜、ク、

又、其、他、之、下、地、ト、レ、宜、カ、レ、レ、大、塔、等、同、以、後、
之、行、ノ、不、然、能、能、カ、ク、亦、其、他、の、若、明、建、築、等、(一) 宜、ク、